

令和2年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	14	学校名	檀原高等学校
----	----	-----	--------

1. 取組名 「地域店舗と連携した『書店クラブ』活動」

2. 取組概要

・地域の書店内に部室・ブースを設営し、書店に関わる人々との交流。
・店舗内にアンケートボックスを設置し、アンケートを通して来店者との交流。
・専門的スタッフからの学びを通して、地域社会における高校生としての役割や活動についての考察。

3. 特徴

・地域の書店と連携し、店舗内に部室・ブースを設営し、書店に関わる人々(従業員、来店者)と交流を図った。
・店舗内にアンケートボックスを設置し、来店者に「高校生に読んでほしい本」についてのアンケート調査を実施し、紹介された本を参加者が読み、その感想を店内に掲示することで、来店者との交流を図った。
・効果的なポップの作り方やレイアウトの工夫の仕方等を専門の書店スタッフから学び、参加者のスキルアップを図るとともに、地域社会における高校生の役割や活動について考えた。

4. 成果、課題

・【成果】生徒が主体的に活動できるようになった。特に、コミュニケーション能力は活動前と比べてスキルアップし、生徒自身の自信にもつながった。参加した生徒は次のような感想を述べている。「参加したきっかけは、元々本を読むことが好きで、書店で活動するというのに興味をもったからです。活動内容は、書店クラブのメンバーで話し合っ決めてるので、自主性や協調性が身に付きました。また、書店の方と関わる機会も多いので、コミュニケーション能力も以前より向上しました。特に、新聞社等の取材を受けたり、活動内容を発表したりする機会を通して、自分の考えを深め、相手に分かりやすく伝える力は、将来社会人になったときに役に立つと思います。今までは、地域の人々との交流を特に意識して活動してきましたが、今後はインターネット等も活用して、より多くの人にこの活動を知ってもらえるようにしていきたいと思います。」(2年)
・【課題】校務の多忙さに加えて、放課後や休業日等では部活動指導にも関わっており、大変苦労した。こうした取組を更に効果的に継続させるためには、取組を支える人材(教員)の育成と取組に費やす時間の確保が課題と感じている。

5. 本事業による取組とコミュニティ・スクールの導入・推進との関わり

・本年度は、コロナ禍にあつて、従来の地域との連携に関わる取組はできていない。そうした中で、本事業は、地域との新しい連携の在り方を模索したものであり、その成果と検証しつつ、継続についても検討していく予定である。
--

専門スタッフからの学び



部室(店舗内)でのPOPづくり



POP完成店内



笛吹神社での取材

